

アルケイアー記録・情報・歴史―
第一八号 二〇二三年十一月 四九―六八頁
南山アーカイブズ

地方自治体による資料収集と保存

～市史編さんの事務と市の学芸員、異なる場を経験して～

上嶋 康裕

大垣市奥の細道むすびの地記念館

Data Collection and Preservation for Archives by Local Governments

Basho's Oku no Hosomichi Haiku Journey Museum

UESHIMA Yasuhiro

Archeia: Documents, Information and History
No.18 November, 2023 pp.49-68
Nanzan Archives

はじめに

一 『新修豊田市史』編さん事業における資料収集と保存

(一) 『新修豊田市史』編さん事業について

(二) 市史編さん事業における資料整理

(三) 『新修豊田市史』近代部会による編さん過程

(四) 『新修豊田市史』近代部会の成果と課題

二 大垣市の市史編さん事業と奥の細道むすびの地記念館における資料収集と保存

(一) 大垣市の市史編さん事業

(二) 大垣市奥の細道むすびの地記念館の資料収集・展示業務

おわりに

地方自治体による資料収集と保存

～市史編さんの事務と市の学芸員、異なる場を経験して～

上嶋 康裕

はじめに

筆者は現在、大垣市の学芸員として、大垣市奥の細道むすびの地記念館で勤務している。それ以前は、豊田市史資料調査会の専門員として、『新修豊田市史』の編さん事業に従事した。市史編纂の仕事が四年で、学芸員の仕事が六年と、それぞれ限られた年数、また異なる地方自治体での活動になるが、地方自治体による資料収集と保存について、これまでの経験をもとに紹介したい。なお、市史編さんについては、筆者が主に担当した『新修豊田市史』近代部会の活動を中心に取り上げる。市の学芸員については、刊行された書籍をもとに大垣市の市史編さん業務について触れるとともに、大垣市奥の細道むすびの地記念館での資料収集・展示業務を取り上げる。

一 『新修豊田市史』編さん事業における資料収集と保存

(一) 『新修豊田市史』編さん事業について

愛知県のほぼ中央に位置する豊田市は、愛知県下最大の面積（九一・八・三二平方キロメートル、愛知県全体の一七・八パーセントを占める）を有する、人口四二万人の地方自治体である。また、全国有数の製造品出荷額を誇る「クルマのまち」として知られている。千メートルを超える標高差をもつ市域には、自動車産業を中心とする産業や人口が集中する都市部と森林をはじめ豊かな自然を有する農山村部があり、そこに、山間部から平野部までをつらぬく形で河川が流れており、多種多様な歴史文化が息づいている。

現在の豊田市域は、平成一七年（二〇〇五）四月、西加茂郡藤岡村・小原村、東加茂郡足助町・下山村・旭町・稲武町と合併したことにより誕生した。【図一】の通りである。同一八年四月、当時の教育行政部文化財課に市史編さん担当が設置された。同一九年二月、第一回の新修豊田市史編さん委員会が開催され、合併により大きく拡大した市域の歴史をまとめ、次世代に伝えるため、新修豊田市史編さん計画が策定された。編さんの目標は、①市民にわかりやすく、親しみのもてる、利用しや



【図一】豊田市の地区名

すい、内容の充実した市史の刊行する、②より多くの市民が、豊田市の歴史について理解と関心を高めることができる市史編さん活動を行う、③平成二二年度（二〇一〇）の市制施行六十周年に概要版を発刊し、令和五年度（二〇二三）までに全巻を刊行させ、収集した資料の保存と活用の体制を整えることとされた。同年五月一九日、各部会の執筆委員・執筆協力員らが集まって新修豊田市史編さん事業発足全体会議が開催され、全体会議の後、各部会に分かれて編さん事業が本格的に開始された。

市史編さん事業においては、編さん委員会・専門委員会・部会の三組織が作成された。新修豊田市史編さん委員会は、会長（市長）、副会長（教育長）、委員（市議会議員、教育・文化、産業・地域振興等）に関係する団体又は機関の代表者、学識経験者）で構成された。年一回委員会を開催し、編さんの方針や刊行などについて決定した。新修豊田市史専門委員会は、「原始」から「現代」まで本編五部会、「民俗」など別編四部会、「概要版」一部会の計十部会の部会長によって構成された。年四回委員会を開催し、部会間の調整や執筆、編集に関することを検討した。部会は、執筆委員・調査協力員で構成された（部会によっては特別執筆員や調査員も存在）。愛知県内外の大学教員など研究者が、「原始」・「古代・中世」・「近世」・「近代」・「現代」・「民俗」・「美術・工芸」・「建築」・「自然」・「概要版」の十分野に分かれて、調査や研究、執筆を行った。十の部会全体で、二百名を超える研究者が関わる大規模な自治体史編さん事業となった。

市では、平成一八年四月から教育行政部文化財課に市史編さん担当が置かれ、同二〇年四月からは市史編さん室となった（現在は、生涯活躍部文化財課）。同一九年四月からは、豊田市史資料調査会に調査業務が任された。調査会に採用された職員は、各部会の専門員として、資料整理から研究者による調査の段取り、部会会議の設定、部会で扱う巻の編集作業、部会の予算管理などを行った。私自身、平成二四年四月～同二八年三月の四年間、豊田市史資料調査会の専門員として、近代部会の運営に携わった。

前述の組織のもと、平成二二年度の「概要版」を皮切りに、「原始」から「現代」までの資料編十二巻、「民俗」から「建築」までの別編六巻、令和元（二〇一九）～二年度に「原始」から「現代」までの本編五冊、掉尾を飾る令和四年度の「総集編」（全巻を集約し事典形式で編集）まで、全二十五巻が刊行された。全二十五巻の刊行順は、【表1】の通りである。「概要版」が最初に刊行されたのは、合併六町村を含めた新豊田市全体が一体感をもつことができるガイドブックが必要であると考えられたためである。

【表1：『新修豊田市史』（全25巻）刊行表】

年度	西暦	刊行書籍
平成22年度	2010	『新修豊田市史 概要版 豊田市のあゆみ』
平成23年度	2011	
平成24年度	2012	『新修豊田市史18 資料編 考古Ⅰ 旧石器・縄文』・『新修豊田市史15 別編 民俗Ⅰ 山地のくらし』
平成25年度	2013	『新修豊田市史7 資料編 近世Ⅰ 藤岡・小原・旭・稲武』・『新修豊田市史21 別編 美術・工芸』
平成26年度	2014	『新修豊田市史19 資料編 考古Ⅱ 弥生・古墳』・『新修豊田市史13 資料編 現代Ⅰ』・『新修豊田市史16 別編 民俗Ⅱ 平地のくらし』
平成27年度	2015	『新修豊田市史8 資料編 近世Ⅱ 拳母・高橋・上郷・高岡・猿投』・『新修豊田市史10 資料編 近代Ⅰ』・『新修豊田市史22 別編 建築』
平成28年度	2016	『新修豊田市史20 資料編 考古Ⅲ 古代～近世』・『新修豊田市史6 資料編 古代・中世』・『新修豊田市史17 別編 民俗Ⅲ 民族の諸相』
平成29年度	2017	『新修豊田市史9 資料編 近世Ⅲ 松平・足助・下山』・『新修豊田市史11 資料編 近代Ⅱ』・『新修豊田市史23 別編 自然』
平成30年度	2018	『新修豊田市史14 資料編 近代Ⅲ』
令和元年度	2019	『新修豊田市史1 通史編 原始』・『新修豊田市史2 通史編 古代・中世』・『新修豊田市史12 資料編 近代Ⅲ』
令和2年度	2020	『新修豊田市史3 通史編 近世』・『新修豊田市史4 通史編 近代』・『新修豊田市史5 通史編 現代』
令和3年度	2021	
令和4年度	2022	『新修豊田市史 総集編』（事典・年表・図表）

※当初の発刊計画より一部、変更されたものがある。

なお、当初の計画は、同二年八月一九日の編さん委員会にて一部、変更が承認された。

近代部会では、刊行計画のもと、市域ゆかりの古文書や記録類を掲載した資料編三巻、それらを利用し地域の歴史を叙述した通史編一卷を発刊した。平成二七年度刊行の資料編Ⅰは、明治四年（一八七二）の廃藩置県から明治三七～同三八年の日露戦争までを扱い、平成二九年度刊行の資料編Ⅱは、明治三九年の町村合併から昭和二六年（一九五二）の拳母市成立までを扱い、平成三一年度刊行の資料編Ⅲは特論として資料編Ⅰ・Ⅱに収録できなかった山や川、災害、大規模神社、人口・生活誌を扱っている。令和二年度刊行の通史編は、明治四年の廃藩置県から昭和二〇年のアジア・太平洋戦争の終結までを叙述している。令和四年度には、当初の刊行計画にはなかったが、資料調査の過程で発見された多様な絵図・地図等や、近代の資料をもとに作成した図表類を掲載した地図編を刊行した。

なお、市史編さん事業の調査報告や進捗状況については、『新修豊田市史だより』（年二回発行）、『豊田市史研究』（年一回刊行）、市史講座（年三回程度）などを通して伝えられた。

（二）市史編さん事業における資料整理

筆者が在職した四年間で刊行した巻として、『新修豊田市史10 資料編近代Ⅰ』がある。近代Ⅰには、平成二六年度までに近代部会で調査した膨大な資

料のうち、九十六の資料群五百四十七点の資料が選択され、掲載されている。これは市域に残る古文書を中心とした資料の調査・整理作業によるところが大きい。今回の市史編さん事業では、『豊田市史』や旧町村誌の編さん作業で作成された資料調査の目録や資料コピーをもとに、それらの資料の現在の保管状況を出来る限り、調査した。ただし、一度に市域全体の資料を調査・整理することは難しいため、近世部会が資料編近世Ⅰ～近世Ⅲで取り上げる対象地区順に実施する方法がとられた。資料編近世Ⅰで扱う市域北部（藤岡・小原・旭・稲武地区）、資料編近世Ⅱで扱う市域南西部（拳母・高橋・上郷・高岡・猿投地区）、資料編近世Ⅲで扱う市域南東部（松平・足助・下山地区）である。各地区においては、近世以来の旧村の資料を伝来している自治区の資料をはじめ、個人の家に伝えられた資料などを調査した。作業効率や各地区の地域性を看取る上で、こうした地区ごとの調査方法は功を奏したと考える。もちろん、そうした調査計画に基づく資料調査・整理の間に文化財課の業務で受け入れた資料や、個別の部会で調査を進めた資料、個人等から持ち込まれた資料なども調査した。その結果、令和三年度（二〇二二）末時点で、四〇八資料群の調査を行い、資料目録を作成したとのことである。

所蔵者から借用した資料は、豊田市史資料調査会の専門員と調査会で雇用した資料整理のアルバイトで整理を実施した。

市史編さん事業で扱う資料には、文字や絵が紙に書かれた古文書以外にも、発掘された土器や石器、絵画や仏像、民具など様々なものが存在した。今回、豊田市史資料調査会の資料整理で主に扱ったのは、古文書である。借用する古文書の固まりには、保存されていた場所や発見された場所などに因んで名前を付けた。自治区であれば区の名称を付けて「〇〇区有資料」、個人宅であれば名字を付けて「△△家所蔵資料」などとした。前述の四〇八資料群というのは、「〇〇区有資料」や「△△家所蔵資料」などと名付けた古文書の固まりが四〇八あるということである。つまり、豊田市内で四〇八箇所から古文書を借用し、整理を行ったということである。いち資料群の資料点数は、資料の性格によってまちまちであるが、例えば、S地区のK区有資料であれば六千二百二十四点といった具合である。

資料整理作業は、おおよそ次のような手順で行った。

- ① 現地で資料が保存されていた場所や状況を記録する。作業を効率的に進めるため、所蔵者の許可が得られれば、借用書を発

行した上で、資料を市史編さん室に一時的に預かる。

- ② 箱の中で、積み重なっている状態の資料を上から一定の取り上げ順で取り上げて、資料に仮番号を付ける。番号を付ける際には、出来る限りもとの秩序を尊重することを心がける。あわせて、袋や包紙、束による一括の情報も記録に残す。
- ③ 仮番号を付けた資料から、資料に付着したほこりなどを丁寧に刷毛で掃除する。放っておくとほこりが、水分を吸着してカビや害虫が発生する恐れがあるためである。また、ホチキスやクリップなど長時間付けたままにするとさびたり、輪ゴムやセロハンテープなど変質したりする恐れのあるものはとる。その際、ホチキス・クリップ・輪ゴム・セロハンテープなどで資料が一括されていた情報は記録に残す。
- ④ 中性紙の封筒に資料を一点ずつ収める。掃除を終えた資料を封筒に納める際には、虫食いや継ぎ目剥がれ、固着の状態、はがれた貼紙など資料の状態も封筒に記録しておく。
- ⑤ 中性紙の封筒に収めた資料について、エクセルでデータを入力して目録を作成する。資料の内容に関する表題や、作成年代、資料の作成者、宛名、年月日などの情報を入力する。なお、②や③の段階で、初、一つの資料だと思っていた資料が内容的に複数の資料であるとわかった場合、資料番号を順番に後ろにずらしたり、枝番にしたりした。調査会では、仮番号付けの作業と入力された情報の確認作業を専門員が行い、資料の掃除と基本的な情報の入力をアルバイトが行った。
- ⑥ 各資料の入力が終わったら目録全体を見直し、正式な番号を記した。表題や作成者、宛名の内容の入力・確認作業には、特に注意を払った。目録を確認する各部会の研究者が、おおよその見当がつけられるようにするためである。研究者は、こうして整理された資料の中から、資料編に掲載する資料を選定したり、通史編の叙述などに生かしたりした。
- ⑦ 資料整理、目録作成を行った資料群は、資料を保存するため、中性紙製の箱に収める。収めた箱には、資料名を箱の外側に記す。箱には防虫剤を入れる。
- ⑧ 研究者による調査を終えた後、専門員などで主要な資料の写真撮影を行う。
- ⑨ 写真撮影後、所蔵者へ資料を返却する。返却時には、作成した目録と資料群の内容を要約した資料概要をお渡しする。返却

の際には、資料を収めた文書箱に市史編さん室の連絡先も記しておく。

こうして整理作業を経た資料群は、主に近世部会や近代部会の研究者が資料を確認し、調査・研究が進められたことにより、市史に活用された。以上が市史で実施された資料整理作業であるが、実際、近代の資料編全三巻に収録されたのは、資料編近代Ⅰが九十六の資料群から五百四十七点、近代Ⅱが五十三の資料群から四百六十五点、近代Ⅲが四百七十八点の、計千四百九十点である。今回の市史編さん事業で調査・整理された資料のほとんどは（数万点にも上るであろう）、市史に掲載されていない。しかし、実際に掲載されるのが一部であったとしても、各地域の類似点や相違点を生の資料にもとづいて把握しておくことが、広大な市域を有する豊田地域の歴史叙述には不可欠であったと考えられる。また、市内に残る資料保存の観点からも、より多くの資料の調査と確認が求められた。

市史編さん事業では、当初より資料返却後の所蔵者との関係にも注意を払うように心がけていた。資料を借りて市史に掲載すれば、資料の役目が終わるといわけではない。資料はこの先も保存され続ける様々な理由が存在する。理由の一つは、市史の叙述のもとになった証拠資料であるためである。また、別な理由として、所蔵者自身にとつて資料は、自分たちが生きていくための拠り所にもなりうる。実際、ご自宅の歴史を整理した資料を利用してまとめようとされた方、また地区で整理した資料を展示したり、講座を開催された方もいらっしやった。現在、残されている資料の一点一点が、今日の豊田市域を形作ってきた歴史をたどることの出来る貴重な財産である。資料所蔵者とお話する際には、所蔵者自身が資料に興味をもってもらえるような話題を提供したり、また、資料に関して困ったときに気軽に連絡していただけるようつとめた。資料概要を作成してお渡しすることや、箱に大きく連絡先を記したことは、こうした理由からである。大規模な資料群の所蔵者には、年一回、こちらから電話連絡をし、防虫剤の入れ替え作業のお手伝いにお邪魔したこともあった。

なお、現在の調査会職員の記事によれば、所蔵者と定期的に連絡がとれている資料群はそれほど多くないこと、今回の編さん事業で調査した資料群でも、調査終了後の現状について把握が困難な資料群もあることが述べられている。そのため、これからも現状が把握できている資料群を増やすことが必要であるという。そして、今回の悉皆調査により、市内の資料の所在を把握する基

礎データを作成できたことで、万が一、災害が起こった際のレスキューにもつながることも述べられている。

(三) 『新修豊田市史』近代部会による編さん過程

近代部会は、平成一九年（二〇〇七）五月一九日に第一回部会を開き、部長・執筆委員らが集まって編さん事業を開始した。近代部会の部会員は、多少、時期によって変動もあるが、おおよそ二十名弱で、政治、教育、産業・経済、宗教・文化、地理、電力、人口統計、災害、山林、治水等大小様々な分野の専門家が集まった。半期に一回開催された部会会議では、各巻の構成や調査活動の方針などについて協議した。資料編の全三巻の構成と内容についても議論が積み重ねられた。議論の結果、平成二十一年（二〇〇九）の第九回部会で資料編の構成がまとまった。資料編近代Ⅰは、明治四年（一八七一）の廃藩置県から明治三八年の日露戦争終結までを取り上げ、近代Ⅱは、明治三九年の町村合併から昭和二六年（一九五二）の拳母市成立までを取り上げることとなった。掲載資料の時期区分を定めたのち、近代Ⅰと近代Ⅱは「政治・行政」、「産業・経済」、「教育」、「宗教と文化」のジャンルに分けて、資料を年代順に配列、収録することとした。近代Ⅱの上限は、明治三九年に愛知県が推し進めた大規模な町村合併によって、戦後まで続く町村の体制がつけられた影響を考慮したためである。現在の豊田地域に当たる地域では、西加茂郡は拳母町・保見村・猿投村・藤岡村・小原村・石野村・高橋村に、東加茂郡は足助町・松平村・盛岡村・下山村・賀茂村・旭村・阿摺村に再編された。北設楽郡は稲橋村・武節村となり、碧海郡のうち上郷村・高岡村が豊田地域に当たる地域となった。近代Ⅱの下限が、昭和二〇年（一九四五）八月十五日ではなく、昭和二六年の拳母市の成立であるのは、戦前と戦後の連続性や、拳母町が市制を施行して「拳母市」となった、地域の歴史的な転機を考慮したためである。近代Ⅰと近代Ⅱが時系列の構成であるのに対し、近代Ⅲでは豊田地域全体の近代の特徴をとらえる構成が求められた。協議を重ねた上、近代Ⅲは、豊田地域の近代に特徴的な内容をとりあげ、出来る限りまとまった形で資料を掲載することとなった。全体のテーマを「山と川と道の近代」とし、街道の改修、矢作川の利用、山間部での生業、自然災害、神社の沿革や祭礼といった事柄をとりあげた。あわせて、豊田市郷土史研究会が調査した豊田地域の石造物・記念碑の調査の成果や、自然部会とともに進めた東南海地震・三河地震の聞き取り調査の成果を盛り込んだ。

委員が資料編に掲載する資料の選定や豊田市域に対する認識を深めるため、平成一九年七月二八日、二九日には、市内小原地区にて一泊二日の資料調査が行われた。以降も、毎年一回から二回、市内の各地区で調査や巡見が実施された。また、同二〇年四月からは、月一回の定例資料調査も実施するようになった。定例資料調査では、前述した資料整理後の資料をはじめ、旧町村役場資料、旧家資料や新聞などの調査を行った。また、市内五三箇所小学校を訪問し、学校沿革史の写真撮影を行った。愛知県公文書館をはじめとする市外所在の資料調査、国立公文書館をはじめとする東京所在の資料調査も実施した。

市内外にわたる資料調査の中から、委員が資料編に掲載する資料の一次選定を進めた。事務局では、選定された資料を撮影し、撮影した資料を紙に出力しファイリングを行った。各委員は、資料調査をもとに選定リストを作成し、掲載候補資料をA・B・Cとランク付けした(二次選定)。近代の選定資料の大半は、古代・中世や近世で扱う一紙ものではなく、簿冊の一部になることが多いため、委員には簿冊を紙焼きしてとじたファイルをみてもらい、どこからどこまでの筆耕が必要か、付箋を貼ってもらうようにした。筆耕とは、資料を掲載するために、古文書に書かれた文字をワードやエクセル、一太郎などに打ち込む作業である。近代の資料は、くずし字、活字、統計表や指図等々、バラエティーに富んだ資料が多く、筆耕作業にも時間を要した。筆耕のアルバイトの方に、紙焼きと撮影した画像データを渡し、Aランクの資料から順に、掲載資料の三倍を目安に筆耕作業を進めてもらった。筆耕が出来たデータから、刊行する資料編のページ換算に直した上で、各委員に渡し、現在の担当ページに対して、多いの少ないか判断してもらいながら、原稿作成を行なってもらった。半期に一回の部会会議では、発刊までのスケジュールを随時、確認しながら、各巻の構成や担当者・担当ページを決めた。

(四) 『新修豊田市史』近代部会の成果と課題

資料編づくりの過程で次のような課題があった。どうしても、新出の整理資料も含め、膨大な資料を端から端までみることは限られた時間の中では難しく、広大な豊田市域の近代を特徴づける資料を、確認できた資料の中から見出すことは困難を極めた。また、時代が下るほど、区有資料なども大量に増え、どの地区の資料も見ても類似の布達内容の資料が出てくるため、どの地区の資料を

採用するのか、市内の各地区の資料をバランスよく収録できるようにするといふ別な基準での判断も迫られるようになった。近代Ⅰの地区バランスについては、【表2】参照をさせていただきたい。結果的に、これまで知られることがなかった資料、豊田市域の近代史を形作る上で、必要不可欠な資料を優先的に掲載する判断がとられた。

膨大な資料数ということもあり、事務局の専門員としては、資料の撮影や紙焼きへの出力、筆耕作業などが特に大変であったように感じた。

近代部会の成果として、筆者の主観にはなるが、次のようなものが挙げられる。

①稲武地区「古橋家文書」がまとまった形で活字化された。古橋家文書研究会の長年にわたる調査により目録がまとめられ、一般財団法人古橋会理事長古橋源六郎氏や古橋会の関係者、西海賢二氏（当時、古橋懐古館館長）のご厚意により、調査を実施することができた。

②地図編の刊行。複数の部会員から通常の市史の版形では制限もあるという提言を受け、地図編の素案をまとめ、委員会の承認を得た上で、市史編さんの過程で見つけられた近代の絵図・地図、作成図表類を収録した『地図でみる近代の豊田』を刊行した（令和四年度刊）。地図や絵図百二十五点ほどが紹介されており、資料編や通史編を読み解く際に役立つだけでなく、市域の移り変わりをまとめた形でうかがい知ることができる。

③各小学校に所蔵されている「学校沿革史」の調査から、百年前のスペイン風邪の市域での実態がわかったこと。新型コロナウイルス感染症の流行に際し、豊田市郷土資料館企画展「スペイン風邪とコロナウイルス」（会期…令和二年七月一日～同年一月二十九日、『豊田市郷土資料館だより』一〇八号に紹介記事あり）で、「一〇〇年前の危機」として、学校を襲ったスペイン風邪の実態が学校沿革誌や学校日誌などを展示し紹介された。展示担当者によれば、市史の編さん業務の過程で調査・撮影された市内各校の「学校沿革史」・「学校日誌」・「周年記念誌」の画像をもとに、大正七年（一九一八）～同十年にかけて流行したスペイン風邪（「西班牙風邪」・「流行性感冒」など）の記述を探ったという。その結果、臨時休校（休業）やその期間、亡くなった児童名、学校行事の中止、児童用の「口覆」の購入など予防に関する記述などが確認された。展示では実際の資料

地方自治体による資料収集と保存

【表2：『新修豊田市史資料編近代I』掲載資料群リスト】

地区	所蔵	資料群名	掲載資料点数	口絵
稲武	一般財団法人古橋会所蔵	古橋家文書	59	2
稲武	右に同じ	稲武地区武節町区有資料	7	
稲武	右に同じ	稲武地区富永町伊藤家所蔵資料	27	
稲武	右に同じ	稲武小学校所蔵資料	14	1
稲武	右に同じ	稲武地区押山区有資料	14	
稲武	豊田市所蔵	稲武地区黒田町澤田家資料	1	
稲武	豊田市所蔵	稲武地区小田木町後藤家資料	1	
稲武	豊田市所蔵	旧稲武町役場資料	37	
足助	足助資料館寄託	足助地区二ヶ宮区有資料	5	
足助	足助資料館寄託	足助地区御内蔵連区有資料	1	
足助	足助資料館寄託	足助地区御内蔵連区有資料(宮条家旧蔵)	3	
足助	豊田市所蔵	旧足助町役場資料	13	
足助	豊田市郷土資料館所蔵	足助地区紙屋鈴木家資料	14	1
足助	足助資料館所蔵	足助地区白木屋資料	4	1
足助	右に同じ	足助地区月原町宇井家所蔵資料	1	
足助	足助資料館所蔵	足助地区東加茂郡病院共同救護社資料	1	
足助	右に同じ	足助資料館蔵	6	
足助	豊田市郷土資料館寄託	足助地区小出家文書	1	2
旭	豊田市公文書管理センター所蔵/豊田市役所所蔵	旧旭町役場資料	31	
旭	右に同じ	旭地区伊熊区有資料	1	
旭	右に同じ	旭地区小渡町谷家所蔵資料	11	
旭	右に同じ	旭地区伯母沢区有資料	2	
旭	右に同じ	旭地区太田区有資料	1	
松平	豊田市郷土資料館寄託	松平地区菅沼家資料	13	
松平	豊田市郷土資料館所蔵	松平地区旧松平村役場資料	2	
松平	右に同じ	松平地区坂上町原田家所蔵資料	3	2
松平	右に同じ	松平地区豊松小学校蔵	1	
松平	右に同じ	松平地区六所神社所蔵資料	2	
松平	豊田市郷土資料館所蔵	松平地区旧松平村購入資料	2	
下山	右に同じ	下山地区阿蔵区有資料	1	
下山	右に同じ	下山地区田平区有資料	1	
下山	右に同じ	下山地区巴ヶ丘小学校蔵	3	
下山	右に同じ	下山地区和合区有資料	3	
藤岡	右に同じ	藤岡地区西市野々区有資料	9	
藤岡	右に同じ	藤岡地区迫区有資料	5	
藤岡	右に同じ	藤岡地区田茂平区有資料	4	
藤岡	右に同じ	藤岡地区北管木区有資料	1	
藤岡	右に同じ	藤岡民俗資料館所蔵資料		1
猿投	豊田市郷土資料館寄託	猿投地区四畑町浦野家文書	1	
猿投	右に同じ	猿投地区灰宝神社所蔵越戸区有資料	24	
猿投	右に同じ	猿投地区猿投町森光家所蔵資料	2	
猿投	右に同じ	猿投地区加納小学校蔵	1	
高橋	右に同じ	高橋地区野見小学校蔵	2	
高橋	豊田市郷土資料館寄託	高橋地区寺部八幡宮所蔵寺部区有資料	8	
高橋	右に同じ	高橋地区高上福田家所蔵資料		2
高橋	右に同じ	高橋地区平井小学校蔵		2
石野	右に同じ	石野地区如意寺所蔵資料	1	
石野	豊田市郷土資料館寄託	石野地区千鳥区有資料	2	
石野	右に同じ	石野地区野口区有資料	1	
小原	小原郷土館所蔵	小原地区松名杉田家資料	4	
小原	小原郷土館所蔵	小原地区宮代西尾家資料	2	
小原	右に同じ	小原郷土館所蔵資料	4	2
小原	右に同じ	小原地区賀茂原神社所蔵資料	1	
挙母	右に同じ	挙母地区今区有資料	2	
挙母	右に同じ	豊田市郷土資料館所蔵資料	10	3
挙母	豊田市郷土資料館所蔵	下市場村文書	1	
挙母	豊田市郷土資料館所蔵	挙母地区黒部家文書	2	
挙母	豊田市郷土資料館所蔵	挙母地区本地村文書	1	
挙母	豊田市郷土資料館所蔵	挙母地区桜町吉田家資料	11	1
挙母	右に同じ	挙母地区N家所蔵資料	2	2
挙母	右に同じ	挙母地区浄久寺所蔵資料	1	
挙母	豊田中央図書館所蔵	『挙母学校同窓会雑誌』・『益友』	15	
高岡	右に同じ	高岡地区花園町寺田家所蔵資料	3	
高岡	右に同じ	高岡地区大林区有資料	1	
高岡	右に同じ	高岡地区若林区有資料	1	
高岡	豊田市郷土資料館所蔵	高岡地区旧高岡町役場資料	1	

高岡	右に同じ	高岡地区村上家所蔵資料	2	
高岡	右に同じ	高岡地区中田町近藤家所蔵資料	3	
高岡	豊田市郷土資料館所蔵	高岡地区竹村小学校資料	3	
高岡	右に同じ	高岡地区竹元町津島社所蔵		1
上郷	右に同じ	上郷地区猪目春日神社所蔵資料	4	
上郷	右に同じ	上郷地区樹塚東町上野家所蔵資料	3	
上郷	右に同じ	上郷地区上郷区有資料	1	
上郷	右に同じ	上郷地区幸町深津家所蔵資料	3	
上郷	右に同じ	上郷地区福受区有資料	2	
上郷	右に同じ	上郷地区幸福寺所蔵歌部村資料	5	
上郷	右に同じ	上郷地区歌部西町国江区有資料	1	
上郷	右に同じ	上郷地区樹塚東区有資料	1	
上郷	右に同じ	上郷地区寿恵野小学校所蔵	1	
市外	右に同じ	愛知県豊田加茂農林水産事務所蔵(足助支所)		1
市外	愛知県公文書館所蔵	東加茂郡役所文書・西加茂郡役所文書・日清事件二関スル一件留・愛知県勸業雑誌	19	2
市外	田原市博物館所蔵	自由民権関係資料	1	
市外	岡崎市立中央図書館所蔵	『みかほ』第33号附録(複製本)	1	
市外	西尾市岩瀬文庫所蔵	『明治十五年事務功程』(愛知県勢事蹟)	1	
市外	名古屋大学教育発達科学図書室蔵	『北設楽郡学事報告』	4	
市外	岡崎市教育委員会所蔵	額田郡下山村役場文書	11	
市外	徳川林政史研究所所蔵	愛知県庁文書	6	
市外	国文学研究資料館所蔵	愛知県庁文書	18	
市外	右に同じ	東京国立博物館所蔵	2	
市外	農林水産研究情報総合センター所蔵	『愛知県農会報』	2	
市外	東京都公文書館所蔵	諸向往復留	2	
市外	東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵	『三河郷友会雑誌』	5	
市外	宮内公文書館所蔵	諸陵寮回讀冊	1	
市外	国立国会図書館所蔵	東加茂郡臨時郡会議事録	1	
新聞		新愛知	26	
新聞		扶桑新聞	3	
新聞		東海新聞	2	
新聞		愛知新聞	2	
新聞		名古屋新聞	1	
新聞		東京日日新聞	1	

547

26

【掲載資料のうち市内所蔵分】

北設楽郡 8群160点

すべて稲武地区

東加茂郡 25群126点

足助地区 10群49点

旭地区 5群46点

松平地区 6群23点

下山地区 4群8点

西加茂郡 26群117点

拳母地区 9群45点

猿投地区 4群28点

石野地区 3群4点

高橋地区 2群10点

小原地区 4群11点

藤岡地区 4群19点

保見地区 0群0点

碧海郡 16群35点

上郷地区 9群21点

高岡地区 7群14点

計 76群438点

資料全体の81%

【掲載資料のうち市外所蔵分】

14群74点

資料全体の13.5%

【掲載資料のうち新聞分】

6群35点

資料全体の6.5%

計 96群547点

【口絵・編入の資料分】

16群26点

(※口絵のみ5群7点を含む)

計 本文・口絵・編入で扱った資料群と点数

101群573点(資料部分のみだと96群547点)

※平成27年度時点の情報にもとづいている。

が並べられ、「当時の学校現場の緊張感が伝わってくる」ものとなっていた。

④東南海地震・三河地震に関する市民への聞き取り調査。自然部会・近代部会の協力で、市民を対象とした五千通ものアンケート調査（約二千五百通の返答）と聞き取り調査を実施。その成果は、『新修豊田市史23別編 自然』及び『新修豊田市史12 資料編 近代Ⅲ』に記されている。戦時下におこった東南海地震（昭和十九年二月七日）・三河地震（昭和二〇年一月一三日）については、以前より被害の全貌が不明なことが指摘されていた。今回の調査では、アンケートの回答を基礎資料として、市内各地でヒアリング調査が実施された。調査に際しては、被害の正確な位置情報を確認することや、被害直後の行動や周辺被害などを地図や航空写真で確認しながら聞き取りが行われたという。聞き取り調査結果は、文章と地図、聞き取り調査を基に作成されたイメージ図などにまとめられている。市内で二つの地震に関して大々的に聞き取りが行われたのは、おそらく初めてのことである。市史編さんの過程で、これまで知られることのなかった情報が、後世に残されたのである。

成果から、膨大な労力がつぎ込まれ完成された資料編・通史編が徐々に活用されていくこともみてとれよう。どうしても、編さん事業が終了すると、目に見える部分で組織や人員が解体されるため、活用の流れは止まってしまおうに考えられがちである。令和六年（二〇二四）四月開館予定の豊田市博物館に、どのように市史編さん事業の成果が継承されていくのか。令和五年一〇月一日に、新修豊田市史完成記念シンポジウム「市史の成果を未来へ」（スカイホール豊田）が開催され、総集編の事典テキストをデジタル公開する予定であることが示された。シンポジウムの中では、将来的に、人工知能が、私たちの知りたい情報を市史編さんデータの中から集約し、提供してくれるようになってくれるのではないかと、という期待も寄せられた。

二 大垣市の市史編さん事業と奥の細道むすびの地記念館における資料収集と保存

岐阜県南西部、濃尾平野の北西部に位置する大垣市は、「水の都」として知られ、揖斐川や長良川をはじめ大小の河川が網目状に流れている。地下水が豊富で、自噴している場所も多い。古来より東西交通の要衝、経済・文化の交流点として、様々な歴史や

文化の舞台となってきた。関ヶ原の戦いでは、西軍・石田三成の本拠となり、江戸時代には、大垣藩戸家十万石の城下町、中山道と東海道とを結ぶ美濃路の宿場町 揖斐川水系の湊町として栄えた。また、俳諧を含む様々な文化が発達し、元禄二年（一六八九）、俳人松尾芭蕉の『奥の細道』の旅の終着地となった。これが「奥の細道むすびの地」の名前の由来で、大垣市の観光資源のひとつとなっている。

(一) 大垣市の市史編さん事業

大垣市では、平成一五年度より市史編さん事業を開始し、平成二四年度までに資料編六卷（古代・中世一卷、近世三卷、近代一卷、現代一卷）と、考古編一卷、民俗・輪中編一卷、通史編二卷（自然・原始・近世一卷、近現代一卷）を刊行した。さらに、市民が気軽に手にとれる市史を別冊として発刊するよう意見が出されたことから、『図説 大垣市史』一卷（平成二六年刊）・『大垣市史 総集編』（平成二六年刊）が刊行されている。『図説 大垣市史』は、全十巻の調査・研究成果を生かして執筆された文章に、多くのふりがなを付け、写真や表、グラフも数多く取り入れた「わかりやすく、親しみやすい市史」を目指して編さんされた。『大垣市史 総集編』は、既刊各巻を体系的にわかりやすく利用するため、総索引・総合年表・便覧で構成されている。

別冊は当初の市史の刊行計画にはなく、新たに平成二二年度から編さんが開始されたものだが、二冊を刊行した後の『大垣市史 総集編』あとがきには、「（市史に）筆者補足」収録できなかった膨大な資料を市民や研究者に活用していただくため、資料目録を作成しなければなりません。また、古文書を活字化した資料集を発刊する必要があります」と記されている。

その意図が恐らく継承されて、大垣市立図書館の中に歴史研究グループが組織されている。同グループのもとで、現在に至るまで、郷土資料のデータベース化事業や郷土史研究事業が実施されている。目録では、館蔵の歴史資料の目録『郷土資料目録』の刊行（市史編さん事業以前より開始され、現在、第四二集まで刊行）や、『大垣市史 資料編 古代中世』収録文書目録・『大垣市史 資料編 近世』収録文書目録（一）～（三）・『大垣市史 資料編 近代』収録文書目録・『大垣市史 資料編 現代』収録文書目録・『大垣市史 通史編 近現代』収集写真目録（一）～（４）（以上、平成二七年～令和五年刊）が刊行されている。目

録は、市史編さんの過程で収集した文書（大半が複写物）を目録化したものであるため、例言に「所蔵者の指示にしたがい、閲覧すること」・「本目録に掲載された資料を複写する場合は、所蔵者の許諾を得ること」との注意書きが記されている。それでも、どういった資料が編纂の過程で収集されたのかがわかること、また、標題・年月日・作成者・宛名と一部内容も記されている。市の歴史をより深く調べるためのきっかけとなる。資料集では、大垣藩医江馬活堂が幕末から明治初期の情勢を記した記録『大垣市史資料集 『藤渠漫筆』(一)～(九) (以上、平成二七年～令和五年刊)』を刊行している。

前述の目録・資料集や印刷物の有償販売は行っておらず、オンライン上での検索は出来ない。現在のところ、大垣市内の図書館から近隣図書館で閲覧するほか、一部の目録については大垣市ホームページ上にPDFの形で掲載されている。

(二) 大垣市奥の細道むすびの地記念館の資料収集・展示業務

芭蕉との縁をはじめ歴史や文化、経済の交流点として発展してきた中心市街地に「大垣の歴史と文化が息づく賑わいと憩いの空間の創出」を目指し、平成二四年(二〇一二)四月に開館したのが、大垣市奥の細道むすびの地記念館である。令和四年(二〇二二)三月に入館者数が二百万人に達し、令和四年度には開館十周年記念事業を実施した。記念事業では、新たに常設の芭蕉館・先賢館において、スマートフォンで展示の詳しい解説の他、関連アニメや動画のストーリーミング配信などを視聴することができるようにした。また、同年四月一七日、インターネット生配信番組「ニコニコ美術館」(株式会社ダウンゴ運営)で常設展及び第三十二回企画展「芭蕉の時代～俳諧好き大集合～」を紹介した(来場数一万七千六十人、コメント数一万二千八百八十二件)。

同館では、芭蕉や『奥の細道』と大垣の先賢を紹介する企画展を、春・夏・秋の年三回実施している。過去五年分の企画展の概要は【表3】の通りである。

同館の収蔵資料としては、芭蕉や『奥の細道』など俳諧に関する資料、大垣にゆかりの先賢に関する資料が挙げられる。開館当初に旧奥の細道むすびの地記念館、大垣城、大垣市郷土館、大垣市立図書館から移管された資料を基礎としながら、購入や寄贈資料・寄託資料の受け入れにより、収蔵資料の充実化を図っている。テーマ館であるため、地域のあらゆる資料を受け入れるわけ

【表3：大垣市奥の細道むすびの地記念館 過去5年分の企画展】

回数	会期	企画展タイトル	入館者
第25回	H31. 3. 30～R1. 5. 12	芭蕉の真筆でたどる『奥の細道』⑥ ～片雲の風に誘われて 旅立ち前夜～	約5,600人
第26回	R1. 7. 20～9. 1	博士のまち・大垣④ 鉄道敷設の大家で橋梁学の工学博士・ 那波光雄	約3,000人
第27回	R1. 10. 5～11. 17	芭蕉と門人① ～伊賀の蕉門俳人たち～	約5,500人
第28回	R2. 3. 28～5. 10 ※4. 4～6. 30休館	真筆でたどる芭蕉の生涯③ ～『奥の細道』の旅 そして終わらぬ旅～	約200人
収蔵品展	R2. 7. 18～8. 30	発見！！おおがきの偉人	約1,000人
第29回	R2. 10. 3～11. 15	蕉風俳諧の伝道師 支考	約1,600人
第30回	R3. 3. 27～5. 9	元禄の有名俳人 芭蕉と木因	約1,300人
収蔵品展	R3. 7. 17～8. 29 ※8. 20～9. 30休館	おおがき宝モノがたり	約1,000人
第31回	R3. 10. 2～11. 14	広がれ！！俳諧仲間の輪 ～美濃国より季語を込めて～	約2,000人
第32回	R4. 3. 26～5. 15	芭蕉の時代 ～俳諧好き大集合～	約3,000人
第33回	R4. 7. 16～8. 28	小原鉄心と大垣 ～激動の時代！！人々はどう生きたか～	約2,000人
第34回	R4. 10. 1～11. 13	芭蕉と門人② ～美濃の蕉門俳人たち～	約2,800人
第35回	R5. 3. 25～5. 14	めざせ！！芭蕉 ～中興俳諧の時代～	約3,600人
第36回	R5. 7. 15～8. 27	飯沼慾齋Linumaeから牧野富太郎Makinoへ ～植物へのまなざし～	約3,000人

はなく、前述のテーマに合致し、活用が見込まれる資料を受け入れているという実態である。収蔵資料点数としては、開館当初、約千点であったが、現在、約二千七百点である。この中には、芭蕉の真筆資料十三点が含まれている（市蔵・預託合わせて）。

市史編さん事業で得られた成果を、記念館での展示業務に直接結びつけることが、目に見えて多いわけではないが、図書館などと情報を共有しながら業務を進めている。

おわりに

二つの地方自治体の資料収集と保存、活用について、これまでの経験をもとに紹介した。資料調査の目的は、資料（文化資源）の把握・保全・継承であり、刊行物や展示は、あくまでその目的の手段のひとつである。ただし、自治体史編さんでの刊行物制作や企画展といった時限的なイベントは、事業費が相応にあてられており、目に見える成果もあり、市民や同じ自治体職員による関心事や共感を得やすい。

時限的なイベント（自治体史編さんでの刊行物作成や企画展）と長期的な目標（資料保存と継承）のいずれもが地域の

文化資料を守り継承していくために必要であり、そのバランスの中で働いていることを実感している。

参考文献

豊田市文化財課（市史編さん事務室）発行『新修豊田市史だより』第一号、平成二〇年三月

豊田市教育委員会文化財課市史編さん室発行『新修豊田市史だより』第二号、平成二二年一月

新修豊田市史編さん専門委員会編集『新修豊田市史10 資料編 近代Ⅰ』平成二八年

新修豊田市史編さん専門委員会編集『新修豊田市史11 資料編 近代Ⅱ』平成三〇年

新修豊田市史専門委員会編集『新修豊田市史23 別編 自然』平成三〇年

新修豊田市史編さん専門委員会編集『新修豊田市史12 資料編 近代Ⅲ』令和二年

豊田市郷土資料館編集『豊田市郷土資料館だより』一〇八号、令和二年九月

新修豊田市史編さん専門委員会編集『新修豊田市史4 通史編 近代』令和三年

豊田市郷土資料館編集『『新修豊田市史』通史編刊行記念 はじめてのとよた史』令和四年

豊田市生涯活躍部文化財課市史編さん室『新修豊田市史だより』第三〇号、令和四年八月

豊田市生涯活躍部文化財課市史編さん室『新修豊田市史だより』第三一号、令和五年一月

豊田市生涯活躍部美術・博物館 文化財課市史編さん室『新修豊田市史だより』特別号、令和五年一〇月

参考ホームページ

大垣市ホームページ内「大垣市立図書館 歴史研究グループからの案内」(<https://www.city.ogaki.lg.jp/0000034750.html>)

大垣市奥の細道むすびの地記念館ホームページ (<http://www.basho-ogaki.jp/>)

豊田市郷土資料館ホームページ (<http://www.toyota-rekinaku.com/>)

※いずれも令和五年九月一日参照。

